



※ 蛍は、佐保川小学校付近で、見ることができるようになっているようです

## 南都八景

南都八景は、東大寺・興福寺周辺にみられる奈良の美しい景色とそれにとけこんだ風物をえらんで名づけたもので、「八景」の様式にならって8つを選んだ風景評価の一つ。

佐保川蛍、東大寺鐘、三笠山雪、春日野鹿、南円堂藤、猿沢池月、雲居坂雨、轟橋旅人、の8つをいう。

室町時代に京都相国寺鹿苑院の僧、蔭涼軒（インリョウケン）主が記した『蔭涼軒日録』1456年9月26日の条に、季瓊真薬（キケイシンズイ）が將軍足利義政に付き添って春日社に詣でた時の記事として、南都八景が文献に初めて登場する。

その後、江戸時代の各種の絵図や名所案内記に描かれて広く知られるようになった。

**東大寺鐘（とうだいじのかね）** - 東大寺の境内、大仏殿の東斜面に鐘楼があり、大きな釣鐘が現存する。重さ26.3トン。奈良時代に地震で二度落下したことがある。大晦日には一般人もこの鐘を撞くことができる。

**春日野鹿（かすがののしか）** - 春日野周辺に遊ぶ鹿。春日野を含む奈良公園周辺に約1400頭の鹿が生息している。公園内に鹿園があり、角切りが年中行事として10月に行われている。また12月には鹿寄せも行われる。

**南円堂藤（なんえんどうのふじ）** - 興福寺（こうふくじ）境内にある重要文化財の南円堂の横に藤棚があり、今も藤の花を咲かせる。堂は西国三十三所の九番札所として参詣人が絶えないが、本尊の不空羅索観音は特別な開扉日以外は閉じられている。

**猿沢池月（さるさわいけのつき）** - 猿沢池の上空にかかる月を愛でて、中秋の名月の日に「采女祭」（うねめまつり）が行われる。稚児や花扇が練り歩いた後、池に管弦の船を浮かべて花扇が投げられる。

**佐保川蛍（さほがわのほたる）** - 佐保川のホタルを保存すべく、川の清掃が地元の人たちによって行われている。新聞報道によれば、現在ではホタルが復活している模様である。

**雲居坂雨（くもいざかのあめ）** - 雲居坂、「雲井坂雨」としているものもある。現在は県庁東の交差点から国道369号線を200メートル北行した東側に「雲井坂」の石碑が、「轟橋」のやや小さな石碑と並んで残る。急な登り坂。霧雨が降る様が美しかった！

**轟橋旅人（とどろきばしのたびびと）** - 轟橋、雲居坂・轟橋の石碑のあたりにかつて存在した橋。現存しないが、橋の一部であった石が歩道の敷石として残されている。「轟橋旅人」を「轟橋行人」としているものもある。

**三笠山雪（みかさやまのゆき）** - 三笠山は若草山の別名。やや南にある「御蓋山」（みかさやま）とは異なる。毎年1月に山焼きが行われるため、冬はかすかに草が生えるだけの山となっており、雪が積もると真っ白になる。